

ファミリーフェスティバル③～若狭湾クラフトマルシェ～

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
300	231	231	231（宿泊 51 家族 191 名／日帰 11 家族 40 名）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・親子を対象とし、クラフト活動、遊びリンピック活動、読書活動等を通して、健康増進と親子関係の向上をはかる。
- ・日常生活に体験活動を取り入れられるきっかけづくりとする。
- ・若狭地域の団体をはじめ、各団体同士が連携するきっかけづくりとする。

◆期日・期間

平成 30 年 12 月 1 日（土）～12 月 2 日（日） 1泊2日

◆連携機関

福井県教育委員会、小浜市教育委員会、若狭町教育委員会、一般社団法人おおい町観光協会、一般社団法人若狭高浜観光協会、一般社団法人若狭三方五湖観光協会、若狭おばま観光協会、若狭ロータリークラブ（協賛）、その他ブース出展・協力機関

◆参加者分析

福井県嶺南地域及び県外では京都府舞鶴市、滋賀県高島市の全小学生に届くように学校経由で配布したこともあり、特に舞鶴市、高島市、敦賀市、小浜市からの参加者が多かった。

これ以外の都府県からの参加者は、過去事業の参加者にもチラシを送付していることから、その中からの参加と考えられる。

表 1. 応募者及び参加者の詳細（宿泊と日帰りの合計）

府県	福井	京都	滋賀	大阪	兵庫	愛知	岐阜	奈良
家族数	24	24	8	2	1	1	1	1
参加者数	87	87	82	8	6	3	4	4

◆企画のポイント（日程・特色など）

- ・昨年度の反省に、クラフトのみの体験であり、時間を持て余してしまうファミリーがいたこと、体験人数設定が少なく整理券を急ぎょ発行したことから不満に思う参加者がいたことなどを参考に、今年度は、①体験人数が極端に制限されてしまうブースを設定しない、（いつ行っても体験できる）、②「体を動かすブース」を複数設定、③読書活動の推進に関するブースの設定、することを企画として出展ブースを設定した。この結果、参加者から「のんびりと体験できた」「体を動かす体験は来年も続けてほしい」など好評をいただいた。
- ・読書活動の推進において、2ブースを設定した。読み聞かせでは地域で活躍されている読み聞かせボランティアサークルの方に御協力を仰ぎ、新しいつながりを構築することができた。また、ブックシェアリングでものんびりと読書を楽しむ子供の姿も見られ、読書活動に親しむ機会が提供できたと考えられる。

◆運営のポイント

- ・職員全員体制で運営することから、職員への情報共有、役割分担は早めに行うよう心掛け、事業担当者の分担分、若狭湾ブース担当者、遊びりんピック担当者にブース企画、準備、運営の一連の流れを意識していただくように働きかけたことで、当日の運営はスムーズに進んだ。

◆安全管理について

- ・特に室内クラフトであることや、各ブースの運営者が日常的に行っている出展内容であることから、各ブースの安全管理に委任した。

3. アンケート結果

<参加者>

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	66.1%	33.9%	0%	0%	
	4 満足	3 やや満足	2 やや不満	1 不満	

- ・「満足」「やや満足」合わせて100%となった。
- ・時間に追われることなくのんびりと体験できて良かったとの声が多数みられた。
- ・天候にも恵まれたことから海のロケーションも素晴らしく、印象が良かったと思われる。また、体験者数に限りのあるブースを置かなかったことから、時間に追われず、好きな時に好きなブースを体験できるようにしたことは大きい要因である。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・目的である「親子での体験を通じた、健康増進と親子関係の向上」について、時間に追われることなく、様々な体験を親子で共有できるようにしたことで、日常的な体験活動への意欲や読書活動への意欲につながるきっかけを作ることができたと思われる。
- ・新しく本イベントに参画いただいた、地域の団体として、読み聞かせボランティアサークル「虹の会」、WDA小浜ドローン協会、きいぱす、などとの新しいつながりができたことで、地域ぐるみの体験活動の展開に今後も期待が持てる。

(2) 課題（特に運営面で）

- ・事業準備の全体スケジュールを立案したものの、募集開始が1週間遅れ、募集日数が1週間昨年度より減ってしまい、結果的に昨年度より参加者が減ってしまった。
- ・体を動かすブースについては特に、安全管理の基本、参加者への指導内容、責任の所在について、主催者側と出展者側で事前に綿密に協議し、その内容を共有し、あやふやなままに体験を提供することがないように体制を整える必要がある。
- ・広報の際、メディアを活用することで広範囲から集客できるのではないかと。(福井新聞、滋賀や京都のローカルケーブルテレビなど)



5. 活動の様子 写真（数枚）

